

天理教 江南支部だより

発行先 江南支部
発行日 立教188年 6月1日
発行責任者 九里正昭
発行住所 甲賀町神1750番地の1
6月号 N0299

4・29 全教一斉ひのきしんデーを実施

4月29日、「成人の旬 一手一つにひのきしん」をテーマに全教一斉ひのきしんデーが実施され、全国各地でひのきしんが行われ、報恩感謝の汗が流された。

江南支部では、本年も各組ごとに実施。甲南組は、甲南地域市民センター、甲賀組は甲賀B&G海洋センター、信楽組は（特養）信楽荘を会場にそれぞれ除草、清掃ひのきしんを行った。当日は少々肌寒い日となったが、ひのきしんを進めるには絶好のお天気となった。各会場とも少年会員や家族ずれの参加者も多く、和気あいあいと作業を進めた。また、甲南組は追加会場として5月10日やまなみ工房を会場に2度目のひのきしんデーを行った。



全教一斉ひのきしんデー追加会場

信楽組

紫香楽病院 6月8日（日曜日）午前8時30分～

朝の信仰読本 中山慶純著

お話を取り次ぐ力をつけよう

ある教会長さんが、修養科時代の恩師に聞いた話を教えてくれました。

その方は若いころ、古い安ア・パートの一室を借りて、単独布教をしていました。毎日にをいがけに歩きましたが、話を聞いてくれる人はほとんどいませんでした。

でも、気落ちしているわけにはいきません。そこで、「この部屋から、明るく陽気な雰囲気にしていこう」と思い立ち、畳の上に端座して、誰もいない部屋で神様のお話を始めたのです。誰が聞いてくれるわけでもありませんが、来る日も来る日も続けました。もしかしたら、屋根裏のネズミくらいは耳を傾けてくれていたかもしれません。そんなある日、隣に住むご婦人が、部屋を訪ねてきました。

「お宅からは毎日、神様のお話が聞こえてくるので、さぞかし大勢の人が聴きに來られているんやろうなあと思っ

ていましたが、人の気配が全然ありませんなあ。みなさん、えらい静かに話を聴きはるんやなあ」

「いえ、実は誰も来てないんです。信者はまだ一人もいません。でも、練習を兼ねて毎日お話をさせてもらっているんです」

「それは気の毒なことや。せめてご飯でも作って、持ってきてあげましょう」

そうしてお世話になるうちに、ご婦人はお道の話も聞いてくださるようになり、最初のようにぼくになってくださったのです。その後、一人、また一人とをいが掛かり、にぎやかになっていったということですよ。

この話から分かるのは、をいがけは、話を聞いてくれる人がいないと何もできないわけではないということです。私たちはいつ、どこで、どんな人と出会わせていただくか分かりません。

「お話の取り次ぎの勉強は、聴いてくれる人が現れてから始めればいい」と思っているのは遅いのです。どんなお話でも取り次げるよう、日ごろから力をつけておくことが大切です。

道端で可憐に咲く花を見たとき、あ
るいは、暑い日に心地よい風が吹き抜
けたときなど、私たちはどんなときも
親神様のご守護を感じる事ができま
す。それを「どうやって人さまに伝え
たらいいかな？」と考えて、お話の練
習をするのも一つです。実際に声に出
せば自分の耳にも入り、心に治まっ
ていきます。

また、「恥をかいたら丸くなる」と
聞かせていただきます。

をいがけでは、恥をかいたり、つ
らい思いをしたりすることも少なくあ
りません。しかしそれが、素晴らしい
おたすけ人へと成人する糧となるので
す。

こうした弛まぬ真実の積み重ねの先
に、いつか人さまに教えを聞いていた
だけの日がやって来るのです。



“みちのとも”より一寸いい話 夫婦で少しでもひながたを実践し

滝浦 剛 教会長

現在、教会には私と妻、妻の母（前会長）と、小学3年生で9歳のAちゃんという女の子がいます。Aちゃんは里子で、一緒に暮らして5年になりません。

実子がいない私たち夫婦は、ある方から養育里親のことを教えていただき、妻と相談のうえ、里親登録をすることに決めました。里親制度は、私たちに希望を与えてくれました。

縁が結ばれたのは、当時4歳になったばかりのAちゃんでした。この話を聞いたときの大きな喜びと不安、初めて会ったときの緊張は、いまでも鮮明に覚えています。

一緒に暮らすなかには、もちろん大変なこともあります。Aちゃんがいるだけで楽しくうれしい毎日です。与えるよりも、与えてもらっていることのほうがはるかに大きく、心から感

謝しています。

教会としては、地域に根ざし、必要とされる教会を目指して、日々取り組みんでいます。

私たちが住む盛岡市は、冬は長く、寒く、雪も降ります。教会に面した道路を雪かきしたり、融雪剤を散布したり、ごみを拾ったり、落ち葉を集めたり。そうした何げない日常のひのきしんを通して、地域の方に喜んでいただけるよう努め、声を掛けています。

また、ありがたいことに、Aちゃんが来てくれたおかげで、教会に出入りする方や、私に声を掛けてくれる方が増えました。信者さんはもとより、近所の方、学校や行政の方、里親をしている方など、いろいろな方とふれ合う機会ができ、悩みを共有したり、支えていただいたりしながら、楽しく、笑顔溢れる日々を過ごしています。

Aちゃんの成長の速さには毎日のように驚かされ、喜びを感じています。だからこそ、私たち夫婦が教祖のひながたを少しでも実践して、たすけ合い

本年のこどもおぢばかえりも、「こども横丁」を担当します。設営の作業が進められています。ひのきしんに出ただけの方は、担当者 龍池分教会までお尋ねください。

鹿深の家ひのきしん

第1回目	6月5日午前9時～
第2回目	7月4日午前9時～
第3回目	8月7日午前9時～
第4回目	9月5日午前9時～
第5回目	10月6日午前9時～

の大切さや、人の役に立つことの喜びを、Aちゃんにも機を逃さぬよう伝えたいこうと心がけています。

Aちゃんや周囲の方々への幸せを願い、私たち夫婦も教祖にお喜びいただけるよう、この年祭活動を頑張ろうと思えます。まだまだごちない家族ですが、教祖百四十年祭には、親神様・教祖に少しでも成人した姿をご覧いただけることを楽しみにしています。

能登半島災害復旧ひのきしんへ

能登半島大地震、豪雨災害の被災地は未だ厳しい状況が続いている。大規模な災救隊の救援活動は一段落したが、現在も各大教会や有志の手により復旧活動が続けられている。江南支部でも有志のひのきしん活動は行われてきたが、支部としてまとまって復旧活動をとの声が上がリ、第1次隊として5月11日から13日にかけて8名が珠洲市へ出動し、倒壊家屋からの物品搬出、神社狛犬の台座の研り、近隣の左官仕事などを行なった。

第2次隊として6月11日～13日を予定している。参加いただける方は支部までお問い合わせください。



6月支部にをいかけデー

6月28日午前9時より
拠点教会 近東分教会

甲賀町和田1093番地